

「実践編」の紹介

「実践編」では、4つの取組の「就学前の保育・教育の方向性」に関する実践事例を写真を入れて紹介しています。

取組 1

保育・教育の質の向上



＜就学前の保育・教育の方向性＞

- ①自立心や探究心を育み、主体的に環境に関わり、よりよい生活を作り出せる環境づくり
- ②身近な自然に触れたり体を動かしたりする環境づくり
- ③協同性を育む保育・教育の実践

「実践編」では、

- 「千代田区が大切にしたいポイント」 66事例
 - 0歳児から5歳児の実践事例 24事例
- などを紹介しています。

- 2 身近な自然に触れたり
体を動かしたりする環境づくり

ここでは、

大切にしたいポイント2
植物の生長や生き物に触れることのできる環境＜自然に親しむ＞

を主なねらいとした事例を紹介します。

■保育者は剣や鉈等を通して、身の回りの自然と親しみ生命の大切さに触れることができるような環境を作ったり援助をしたりして、子どもが主体的に身近な自然に関わる経験を豊かにしていくことが必要です。

■子どもの気付きを大切に好奇心、探究心をさらに深めじっくりと関われるよう、活動にゆとりをもたせ、緩やかな長期的計画を立てる必要があります。



理論編 P.16

0歳児 アリさんみつけた



Point 「アリさんいたね」と子どもの気付きに共感する。

遊びを通して子どもが主体的に関わり、様々なことが学べるよう「千代田区が大切にしたいポイント」とのつながりを意識した保育実践の事例を紹介しています。

5歳児 大きくなってね



Point 保育者がカブトムシの世話をする様子を見せる。



＜参考＞
育成課程 P.110～

- 0歳児 12か月頃
- 1歳児 9月／Ⅲ期
- 2歳児 5月／Ⅰ期
- 3歳児 8月／Ⅱ期
- 4歳児 11月／Ⅲ期
- 5歳児 5月／Ⅱ期



取組 1
実践編 P.5～62

●千代田区が大切にしたいポイント

●1 自立心や探究心を育み、主体的に環境に関わり、よりよい生活を作り出せる環境づくり

- (ア)子どもの心の安定を図るため、身近な大人の応答的な関わり
- (イ)自分の興味や関心のあることに、夢中になって遊びこめる環境
- (ウ)困難を乗り越えたり、葛藤を繰り返したりできる環境

●2 身近な自然に触れたり体を動かしたりする環境づくり

- (エ)身近な自然現象や自然物に触れ遊びに取り入れられる環境<自然に親しむ>
- (オ)植物の生長や生き物に触れることのできる環境<自然に親しむ>
- (カ)体を動かす心地よさや楽しさを味わえる環境<体を動かす>
- (キ)思い切り遊ぶことができる環境<体を動かす>

●3 協同性を育む保育・教育の実践

- (ク)自分の気持ちを表現する楽しさや大切さを感じられる環境
- (ケ)一人一人の思いや考えを尊重し合い、皆で一緒に考えられる環境
- (コ)目的を共有し友達と一緒に達成感を味わえる経験につながる環境
- (サ)自己有用感を感じられる環境

大切にしたいポイント

「千代田区が大切にしたいポイント」と事例のつながりが分かるよう（ア～サ）で特に事例と関連するものを表示しています。

環境のくふう

子どもが経験していること、経験してほしいことを支えるため、保育者が大切にしたいことを記載しています。
千代田区が大切にしたいポイント（ア～サ）を示しています。

子どもが 経験していること

この遊びを通して、子どもがどのようなことを経験しているのか、考えられることを記載しています。
千代田区が大切にしたいポイント（ア～サ）を示しています。

0歳児<実践事例1>「だるまさんにタッチしたよ」9～18か月

- ア 身近な人との応答的な関わり
- イ 自分の気持ちを表現する楽しさや大切さ
- ウ 目的を共有し友達と一緒に達成感を味わう

保育者のねがい

- 身近な保育者や友達と共通のリズムや仕草を真似あつことを楽しみでほしい。
- 絵本を通して手や目などの体の部位に興味をもつてほしい。

活動のようす

- 保育者が絵本の読み聞かせをし、声に出して手や目などの保育士の体の部位を指す。
- だるまさんという人形と手や目などの体の部位を指さすようになる。



環境のくふう

- 落ち着いた保育者や友達と共通のリズムや仕草を真似あつことを楽しむ。（ア）
- 手のページでは絵本の手に子どもがタッチできるようにする。（ウ、コ）
- 保育者とのふれあいや遊びの機会を大切に。（ア）



子どもが 経験していること

- 友達と一緒に共通のリズムの心地よさやふれあいや遊びに楽しさを感じる。（ウ、コ）
- 体の部位に興味をもつ。手や目を合わせてタッチをする楽しさを感じる。（ウ、コ）



幼児期の

保育者との

関わりで

育つてほしい

10の姿

積極的な心と

協同性

社会生活との関わり

自然との関わり・生活尊重

言葉による伝え合い

自立心

探究心・

探求心・

発達の

意欲の

育ち

環境

生活

意欲の

育ち

数

算

能力

の

育ち

意

欲

の

育ち

意

取組 2

保幼小の円滑な接続・連携

<就学前の保育・教育の方向性>

- ① 5 歳児から小学校 1 年生までの架け橋期のカリキュラムの作成に向けて
- ② 保幼小の先生同士の連携強化
- ③ 子ども同士の交流機会の確保



「実践編」では

- 架け橋期のカリキュラムの作成に向けての取組
- 先生同士の交流 11事例
- 就学前施設の子ども同士の交流 21事例 を紹介しています。

取組 2 掲載事例の紹介

保幼小連絡会議

公開授業



保幼小の先生が
講義と一緒に受講



保幼小の先生で
グループ討議
「10の姿について」



取組 2
実践編P.63～82

● 1 5 歳児から小学校 1 年生までの 架け橋期のカリキュラムの作成に向けて

千代田区の就学前施設は様々な施設の規模・施設類型があり、小学校へ入学する子どもの出身園は多岐にわたっています。架け橋期のカリキュラムの作成にあたってはこうした違いを超え、千代田区として保育・教育で大切にしたいことの共通性を見出すことが必要となります。それぞれの園での経験の違いがある中、園と小学校の子どもの学びの連続性に配慮したカリキュラムの見直しを行うにあたり、併設されている区立幼稚園・こども園が拠点となっており、小学校区域にある保育園等と連携し、カリキュラムの開発に向けた協議を行う場として「保幼小連絡会」の実施を進めていきます。

小学校長より小学校の
スタートカリキュラム
について説明。

保幼小連絡会議



各園の取組を子ども
の姿を、写真を映し
ながら紹介。



実践編P.64

目的

小学校区域内の保育園・こども園・幼稚園の先生が小学校に集まり、お互いの理解を深めながら保幼小の接続に関わるカリキュラムの作成につなげていく。

内容

就学前施設の 5 歳児の取組や小学校スタートカリキュラムの紹介（P142～P145参照）、その他協議等を行う。

展望

カリキュラムの検討・開発に向けた保幼小連絡会を全小学校区域に拡充し、子ども同士や先生同士が交流する機会設定に向けた準備を積極的に行う。

● 2 保幼小の先生同士の連携強化

0歳から18歳までの学びの連続性を踏まえて、千代田区の子どもを育てていくことが重要です。そのためには就学前施設の保育者同士が、子どもの育ちの理解に基づいてお互いの保育・教育内容について理解を深めていくことが必要となります。これにつながる取組の一つとして近隣園の施設長が集まった「施設長会」を紹介しています。

また、3法令と小学校学習指導要領等に示されている連携・接続の趣旨を踏まえ、先生同士で学び合い、資質・能力等の理解の共有をする場として、「合同研修会」や「公開保育」を実施している園もあります。これらの取組は様々な形式で工夫し、継続的に実施していく必要があると考えます。

施設体験・施設見学

目的

他施設の保育環境や保育方法を見学することで「気付き」を得たり、保育全体の流れや、園児への関わり、連携などを体験したりすることで、自身の保育の振り返りにより、気付きを学びに変えていく。

内容

園見学・保育体験を行い、見学後の振り返りにより「気付き」を「学び」に変え、よいところを自己の保育に取り入れたり、自らの学びを深めたりする機会とする。

展望

実施園へ学びをフィードバックすることで、お互いに学びにつながる施設見学・体験として継続的に実施していく。



実践編P.67

● 2 保幼小の先生同士の連携強化

保幼小合同研修会



目的

架け橋期のカリキュラムの開発を目的とした、公開保育・授業を含めたお互いの施設の情報交換、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をテーマとした取組の共有、課題確認等を行う。

内容

公開保育・授業を見学するとともに、小学校区域ごとにグループをつくり、保幼小の先生同士で学びの連続性や架け橋期のカリキュラム作成を見通した協議を行う。講師による講演を受け、保幼小連携に関する学びを深める。

展望

「遊びから学びにつながる就学前プログラム～実践編～」の実践例を基に、学校・園の実態に合わせた取組を検討・推進し、成果を報告する。参加者は同じ小学校区域でのグループ協議を通じて、先生同士の意見交流を行う。



実践編P.68

● 3 子ども同士の交流機会の確保

就学前施設同士の交流

就学前施設同士の交流は、子ども同士の関わりや活動を広げ、子どもの豊かな経験へとつながります。“新しい友達”や“新しい環境”との出会いによって、興味が広がり、人と関わる力や好奇心・探究心を深めていきます。小規模園は近隣園と過ごすことで集団での活動を経験することができます。同じ小学校区での交流は子どもたちの入学後の安心にもつながります。

交流にあたっては上記のような大きな目的とともに、実際の交流活動としての具体的なねらい、子どもたちの育ちとして『大切にしたいこと』を十分に確認し合い実施することが大切です。また、対面で交流することにとらわれすぎず、各施設のよさや特徴を生かし、交流の仕方・内容等を工夫して日々の保育の充実を図りましょう。

よろしくね

区保

幼

- 次年度同じ小学校に就学する幼稚園と保育園の5歳児同士の交流。就学に期待感や安心感をもつ手だての一つとする。



成果・Point

- お互いを知り関心や親しみの気持ちをもつために、園歌や学級名などを含めた自己紹介を行う。
- 共通で楽しんでいるゲームを選び、親しみを感じ自然に関わるようにする。
- 保幼の5歳児同士の交流から、1年生との交流へと段階的につなげていく。



実践編P.72

● 3 子ども同士の交流機会の確保

小学校との交流

季節の行事を通してお互いの存在を知ったり、運動会や展示会等で小学生の姿に憧れの気持ちをもったりすることは、小学校への期待感を高め、安心感をもって小学校生活をスタートすることへとつながります。交流によって園児は、小学生に対し親しみの気持ちがうまれ、日常の活動の中でも相手を思っ取り組む姿が見られるなど、小学生との交流が園の活動への意欲につながります。

また、小学生も園児と関わる中で、思いやりの気持ちを育んだり、園児の立場に立って考えたりと、相手を意識して関わる経験となり子どもの健やかな成長を促すことへとつながっていきます。

近年は小学校の授業等でもICT機器の活用が促進されており、直接交流だけでなく間接交流の機会も工夫されています。互恵性が育まれる活動内容を計画・実施していくことが期待されます。保幼小連絡会や合同研修会などを通して小学校の活動を理解し、様々な機会を活用して、小学校への円滑な接続につながる取組としていきましょう。

中休みに…

幼

小

■小学校の中休みの時間に小学生と園児と一緒に遊び、交流を深める。



実践編P.74

成果・Point

- 小学生は、言葉を選び園児に伝わるように話し方を工夫する姿、相手意識をもって関わる姿がある。
- 園児は、上級生や小学校生活について知ることができ、就学への不安を減らすことにつながる。
- 小学校区域内の近隣の園との交流を深める。

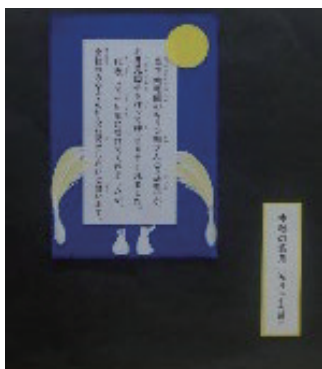
● 3 子ども同士の交流機会の確保

飾ってください

幼

小

- 十五夜に合わせて 5 歳児が作ったお供え団子を 1 年生に届ける。
- 当初計画では 1 年生に届ける予定はなかったが、園児から「1 年生に届けたい」という希望が出され、急遽 1 年生に届けることとなる。



成果・Point

- 1 年生の教室を訪問した園児は、教室の様子に関心を持ち、見たり質問したりして、就学へのイメージや期待をもつことにつながる。
- 小学生は、園児の訪問を喜びとともに幼稚園や園児の存在を身近に感じる機会となる。
- 1 年生の担任が掲示を添えて、小学校の昇降口に団子を飾ったことで、多くの小学生が幼稚園の取組を知るきっかけにもなる。
- 年間計画に位置付けられている交流を推進することに加え、子どもの思いを聞き取ったり汲み取ったりしながら、日常的に関わる機会やお互いを身近に感じることができるような機会を増やしていけるとよい。



■スタートカリキュラム（例）



実践編P.142

A小学校 新1年生 スタートカリキュラム

週	◆主な学校行事 ○活動 ・教師の援助等（☆生活・体力、コミュニケーション力、学力）	
4月	1 ◆入学式 ○あいさつ・返事・学習準備・片付け、登下校指導等 ○教室・学校の使い方（トイレ、靴箱、傘立て、ロッカー、道具箱等） ○並び方（名簿順、2列） ※教科 国語：鉛筆の持ち方、姿勢 音楽：校歌 生活：学校への行き帰り 体育：校庭・遊具の使い方 ・生活科を中心に総合的な指導を行う。（♪） ・学校生活のさまりを具体的な場面で教えていく。（☆） ・トイレ、手洗い場、水飲み場、玄関の使い方については、毎日児童と一緒に行き、繰り返し指導する。（☆） ・絵や写真などを使用し、視覚的に分かりやすい指導をする。（☆） ・朝の会や時間割にとらわれず、業間での設置や1校時との接続など工夫して行う。（☆） ・指導の内容により、モジュール学習（15分、22.5分、30分等）を取り入れる。（☆♪） ・学校のイメージが楽しいものとなるよう、時間や活動にゆとりをもたせながら、楽しく活動させることを心がける。（☆♪） ・多くの児童と関わるができる学習活動を工夫する。（♡） ・学校の職員との協力を得て指導し、必要に応じてITによる複数での指導を行う。（☆♪） 2 ◆1年生を迎える会、発育測定、安全安心パトローラー斉下校 ○給食指導（手洗い、白衣の着脱、配膳の仕方、片付け方等） ○校庭遊び開始 ※教科 国語：ひらがな、低学年図書室の使い方 算数：数字の書き方 音楽：生活：1年生を迎える会に向けて 体育：遊具の使い方、集団行動 道徳：きまり ・生活科を中心に、総合的な指導を行う。（♪） ・日常的に接することの多い言葉や数などに関心をもたせ、教科への分化を促していく。（♪） ・発表してくれる上級生の気持ちや拍手に込める意味合いを事前に考えさせるとともに、自分もどのような気持ちで発表すべきか指導する。（♡♪） ・栄養士と連携し、給食について指導内容や指導方法を工夫する。（☆） ・体育科において、集団行動に関する指導（ゲーム化）を重視する。（☆） ・1年生の児童が読みやすいように、図書室の本の置き方を工夫する。（♪）	6年生との交流 朝の支度補助 読み聞かせ ○6年生と連携し、児童の実態に合った支援・指導を行う。
	3 ◆読書訓練、交通安全教室 ○全校朝会（並び方、話の聞き方等） ○防災頭巾の着脱の仕方 ○学校について（特別教室の場所等） ※教科 生活：学校探検（2年生と交流） ・子どもたちの学校生活の様子を見ながら、総合的な授業展開から各教科への分化を進めていく。（♪） ・学習活動を通して感じたことや気付いたことなどを伝え合うことで、友達や先生との関係を深め合えるよう工夫する。（♡♪）	2年生との交流 学校探検 ○生活科を通して2年生との交流を進める。
	4 ◆縦割り班活動（なかよし子ども会） ○異学年との交流	
5月	1 ○清掃活動（ほうき、のり、雑巾の使い方、机・椅子の運び方） ・6年生と協力し、集団の中での自分の役割意識をもち、進んで清掃活動に取り組めるようにする。（♡♪）	

■スタートカリキュラム（例）



実践編P.143

B小学校 新1年生 スタートカリキュラム

第1期 第1日目 ～ 第5日目

【ねらい】園での生活経験をもとに学校や学校生活への安心感をもつ

- ・学校の施設の様子や生活のリズムを知り、安心して遊びや生活ができる。
- ・新しい友達の顔や名前を覚え、楽しく関わろうとすることができる。
- ・支度の仕方、机やロッカーの使い方などを知り、行おうとする。

なかよしタイムの※は併設園の教諭と共に指導することが望ましい

	1 時間目		2 時間目		3 時間目		4 時間目	
1 日 目			入学式の事前指導		入学式			
			行事		儀式的行事			
2 日 目	なかよし タイム※ 手遊び歌	仕度の仕方 ロッカーの 使い方	わくわくタイム みんなで使う場所の使い 方 トイレ・水飲み 廊下の歩き方		お話をしよう ・学校でやりたいこと		下校の仕方 帰り支度について	
	余剰	学級活動	生活科 「1ねんせいになったよ」		国語		学級活動	
3 日 目	なかよしタイム※ 手遊び歌 お話をしよう はてなを解決		なかよしタイム ・自己紹介をしよう ・グループで話をしよう		わくわくタイム 今までに見つけたもの、 出会った人について話す		園での給 食・お弁当 について話 し合う	下校準備
	余剰（その他）		国語		生活科 「1ねんせいになったよ」		国語	学活
4 日 目	なかよしタイム※ 歌を歌おう 自己紹介をしよう	なかよし はてなを 解決	わくわく 前時で話題 に上ったと ころへ		わくわくタイム 屋上へ行き、春探し		読み聞かせ アレルギー 紙芝居	給食準備
	余剰（その他）	国語	生活科		生活科 「あそびにいこうよ」		国語	学活
5 日 目	なかよしタイム※ ・歌って踊ろう ・みんなで遊ぼう ・はてなを解決	わくわく 体育着にき がえよう	発育測定		避難訓練 ・地震がきたら ・基本の避難行動 「おかしもち」		読み聞かせ 給食の本	給食準備
	余剰（その他）	学活	行事		学活	行事	国語	学活

■スタートカリキュラム（例）



実践編P.144

第2期 第6日目 ～ 第10日目

【ねらい】先生や友達と仲良く関われるようにする

- ・学校の施設の様子や生活のリズムを知り、安心して遊びや生活ができる。
- ・新しい友達の顔や名前を覚え、楽しくかわることができる。
- ・支度の仕方、机やロッカーの使い方などを知り、行うことができる。

	1 時間目		2 時間目	3 時間目		4 時間目	
6 月	なかよしタイム※ ・歌って踊ろう ・みんなで遊ぼう ・はてなを解決		わくわくタイム ・挿絵を見て話そう ・鉛筆の持ち方	ぐんぐんタイム ・はじめて書いた名前 ・名刺作り		読み聞かせ	給食準備
	余剰（その他）		国語 「さあはじめよう」	国語 「さあはじめよう」		国語	学活
7 月	なかよしタイム※ お話をしよう		わくわくタイム ・名刺作り ・交流	ぐんぐんタイム ・名刺の数 ・動物の数		ぐんぐんタイム 読み聞かせ	・給食準備
	国語		国語 「どうぞよろしく」	算数		国語	学級活動
8 月	なかよしタイム ・みんなで遊ぼう ・お話をしよう／きこう ・朝の会		わくわくタイム 学校探検 特別教室や、校庭の遊具、花壇を見に行く	わくわくタイム 行ってみたい使ってみた 教室について話し合う		ひらがな 読み聞かせ	安心安全パトロールの話 給食準備
	余剰（その他）		生活科 「1ねんせいになったよ」	生活科		国語	学級活動
9 月	なかよしタイム ・お話をしよう ・朝の会	心臓検診	わくわくタイム 1年生を迎える会練習 ・名前、好きなもの ・声の大きさ	1年生を迎える会練習 体育館	鬼ごっこ	ひらがな	給食準備
	余剰（その他）	行事	生活科	国語	体育	国語	学級活動
10 月	1年生を迎える会		なかよしタイム 迎える会の感想を伝え合う	わくわくタイム ・音楽室の使い方 ・校歌を歌おう		ひらがな 読み聞かせ	給食準備
	行事		国語	音楽		国語	学級活動

■スタートカリキュラム（例）



実践編P.145

第3期 第11日目 ～ 第15日目

【ねらい】自分でできることを見付ける 学校生活のリズムに慣れ、新しいことを楽しむ

- ・学校の施設の様子や生活のリズムに慣れ、自分でできることは自分で行う。
- ・学校の施設や、学校にいる人（職員・上級生など）に関心を持ち、進んでかかわることができる。
- ・教科等学習に興味を持ち、進んでやってみようとする。

	1 時間目		2 時間目	3 時間目	4 時間目	
11 日目	なかよしタイム ・みんなで遊ぼう ・朝の会	歯科健診	わくわくタイム こんな時なんて言おう	ぐんぐんタイム 1～5を書こう	ひらがな 読み聞かせ	給食準備
	余剰（その他）	行事	道徳	算数	国語	学級活動
12 日目	なかよしタイム	わくわく 全校朝会の 並び方	わくわくタイム 図書館の使い方を知る オリエンテーション	ぐんぐんタイム 校庭の固定施設 で遊ぶ	ひらがな 読み聞かせ	給食準備
	余剰（その他）	学級活動	国語	体育 「体づくり運動」	国語	学級活動
13 日目	なかよしタイム 全校朝会ふりかえり	なかよしタイム	わくわくタイム 図工の学習を始めよう	ぐんぐんタイム 6～10を書こう	ひらがな 読み聞かせ	給食準備
	余剰（その他）		図工	算数 「なかまづくりと かず」	国語	学級活動
14 日目	なかよしタイム	眼科健診	ぐんぐんタイム うたに合わせてあいう えお	ぐんぐんタイム 鬼ごっこ	ひらがな 読み聞かせ	給食準備
	余剰（その他）	行事	国語	体育	国語	学級活動
15 日目	なかよしタイム	ひらがな 読み聞かせ	ぐんぐんタイム 朝顔のたねをよく見て 描こう	0の書き方読 み方	地域班会議 について	給食準備
	余剰（その他）	国語	生活	算数	学級活動	

取組 3

多様性に応じた子どもの支援

<就学前の保育・教育の方向性>

- ①多様性に応じた保育・教育の実践
- ②就学前施設と多様性に応じた関係機関との連携
- ③多様性を尊重した家庭支援への展開

「実践編」では、一人一人に必要な支援を行うことを目指し対応に困ったときに参考になるエピソードや連携していける機関を紹介しています。



取組 3 掲載事例の紹介

対応に悩んだ子どもがいるときは…？



巡回アドバイザー
言語聴覚士
藤森先生による研修

様々な職種の職員が参加
園全体で対応



取組3
実践編P.83～97

取組 4

就学前施設における 地域の子育て支援機能の充実

<就学前の保育・教育の方向性>

- ①未就園児家庭に向けた子育て支援事業と情報発信の強化
- ②地域における子育て支援機能の強化

「実践編」では、地域の子育てを支えていくために、就学前施設が出来ること、どんな関連施設と連携して支援していくかを紹介しています。



取組 4 掲載事例の紹介

施設のよさを生かした子育て支援って？

離乳食（初期食）サンプル



幼児食サンプル



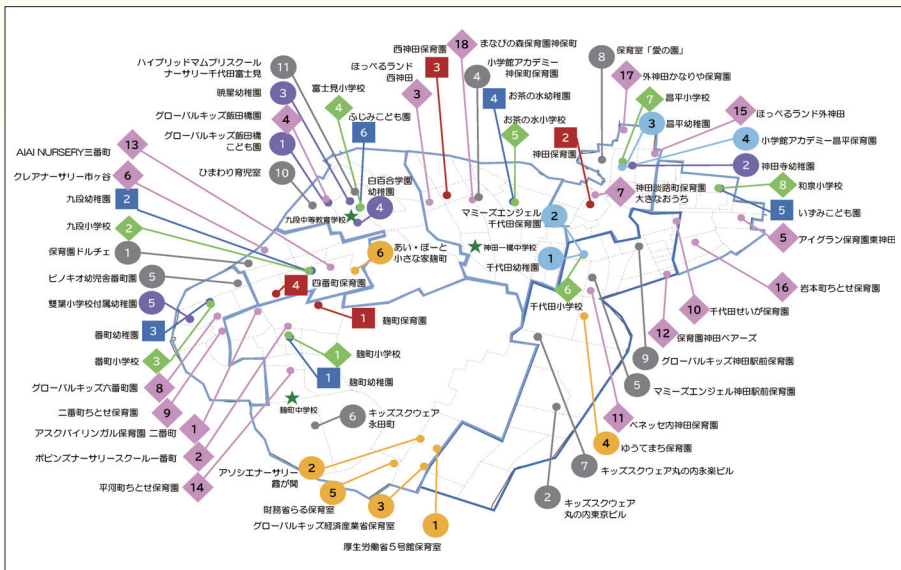
未就園児ママが離乳食体験

- 未就園児のお母さんに、初期、中期、後期、完了食すべての形態の離乳食を試食できるようにする。
- 食材のすりつぶし方なども、実際に栄養士が実践して見せる。



実践編P.98～109

千代田区内保育・教育施設マップ
(令和 6 (2024) 年 10 月現在)



色・形	凡例
	区立小学校
	区立幼稚園・こども園
	区立認可保育園
	認定こども園・私立幼稚園
	幼保一体施設
	私立認可保育園
	地域型保育事業
	認証保育所等
	中学校



実践編P.148~149



就学前プログラムの推進に向けて

実践編を活用し、保育・教育・療育などのそれぞれの現場で取り組みの意義を理解し、目の前子どもたちがその子なりに豊かに成長していくよう、実践を推進していきます。

<主な取組>

校区連絡会の開催

架け橋期のカリキュラム作成・充実に向けて、区立小学校に通学区域の保育園・こども園・幼稚園の施設長が集まり、互いの保育・教育の取組を紹介し相互理解を深めます。また、子ども同士の交流や行事参加などを通して保幼小の接続を円滑にしていきます。

保育の質の向上

一同に会して研修をするのが難しい保育士向けに、研修動画を用意し就学前プログラムの活用について解説します。また、子どもの主体性を大切にした保育実践に関して、講師による解説を加えた公開保育を紹介予定です。



お問合せ先

千代田区 教育委員会事務局

子ども部 子ども支援課

T e l : 03-5211-3599

F a x : 03-3264-3988

M a i l : kodomoshien@city.chiyoda.lg.jp



CUDマークはNPO法人カラーユニバーサルデザイン機構により、認証された印刷物、製品等に表示できるマークです。